2007. 9. 28

毎日新聞 (第3種郵便物認可)

高次脳機能障害者がおにぎりカフェ

高次脳機能障害のある人が調理や接客を担うカフェが10月1日、横須賀市内にオープンする。同市の委託を受けてカフェを運営する社会福祉法人「三育福祉会」（同市）によると、高次脳機能障害者を対象にした、居酒屋型の活動の場は全国的にも珍しいといい、取り組みが注目される。

【内橋寿明、写真も】

調理や接客担い

横須賀「ゆんるり」1日オープン

オープンに向けておにぎりを試作する、障害を持つ人たち

みそ汁付きセットメニューも

同市久里浜4の久里浜障害者支援センターゆんるり内に出来る、おにぎりカフェ「ゆんるり」。新潟産コシヒカリを使い、梅やめんたいこなどを具にした7種類のおにぎり（テークアウトも可）が中心。おにぎり2個におかずやみそ汁を付けたセット（500円）が目玉メニューだ。一品料理やデザートも充実している。

高次脳機能障害は、交通事故による脳挫傷、脳梗塞や脳炎などから生じる後遺症の一つ。新しいことを覚えにくくなる記憶障害や、一つのことを集中して続けることが難しくなる注意障害などの症状がある。

「たくさんのお客さんに来てもらいたい」

同センター長の岸川江利子さん(36)によると、体に目立った障害はないことから見た目からは分かりにくく、本人も自身の障害を認識できないケースもあり、周囲の理解が得られにくいという特徴がある。「まずはこの障害が世の中で広く認知されることが課題」と話す。

同店スタッフ9人のうち34～63歳の7人が、高次脳機能障害者。「おにぎりにするご飯の量さを量る」「具を入れる」などの手順を忘れても困らないよう、手順を書いたメモ帳を各自が持ち、調理場内には張り紙をした。

脳梗塞の後遺症で同障害を抱える元会社員の男性(63)は「次の作業を思い出せなくなる時がある が、やりがいがあって楽しい。たくさんのお客さんに来てもらいたい」と意気込んでいる。

営業時間は午前10時～午後2時半。定休日は水、土、祝日。問い合わせは同カフェ（046・838・4627）へ。